

地区分割に思う

熊本東 R C

東 博 仁

次年度から我々の地区が分割されて、272（熊本、大分）273（鹿児島、宮崎）の2地区となり、5月末の数を基とすれば、272地区が47 R C、2346名、273地区が45 R C、2329名となり、全国27地区中、274地区（佐賀、長崎の一部）に次ぐ小地区となるであろう。

1968年7月273（当時は373）地区が生まれた時は、42 R C、1879名、同年度末47 R C、2129名となっている。当時は、地区幹事の制度も無く、ガバナー事務所経費の地区負担金も無かった。16年間に、クラブも増し、地区の活動分野も広がったが、地区組織も膨脹し会員の負担金も多くなった。

地区分割の最大理由は、ガバナーの管理能力の限界だろうと思う。ということは、地区管理は、ガバナーが直接これを行い、地区組織はこれを助けるためのものであらねばならぬ。地区委員会の独り歩きは、避けねばならぬ。

今後少壮有為のガバナーが続出して、地区に生気を吹きこんでくれることは、大いに望ましいことであるが、これは自然パストガバナーの累増を来すであろう。私見によれば、ガバナーはその任期中全力を尽くして地区に奉仕し、任終われば速やかに各 R Cの一会員にかえるべきである。但し、その後ガバナーの要請があれば、自己の知識経験を地区のために活用すべきことは当然である。諸会合のひな壇陳列（？）や会費免除の来賓扱い（少くとも自地区内での）などやめたがよい。ガバナーは、その任期中に得た多くの知己友情、それで充分報われているのではないか。

我々の地区は田舎地区である。東京や大阪のまねをする必要はない。懇親を旨とする地区大会は別として、その他の諸会合は質実に、月信なども本来の使命に顧みて派手にならぬよう、少しでも会員の負担を軽くするよう考えるべきであり、地区分割は、改革の好機であると思うがいかな。昨年地区大会における永井道雄氏の講演「明治初めの改革は九州人士によって」を思い起こしながら。